201319017A

厚生労働科学研究費補助金
エイズ対策研究事業
平成 25 年度　総括・分担研究報告書

複合予防戦略による多様な若者を対象とした予防啓発手法の開発・普及に関する社会疫学的研究

平成 26 年 3 月
(2014)

主任研究者　木原　雅子
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

複合予防戦略による多様な若者を対象とした予防啓発手法の開発・普及に関する社会疫学的研究

平成２５年度総括・分担研究報告書

平成２６年（２０１４年）　３月

主任研究者　木原　雅子

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野

2014年3月

氏名	所属	職名
Web-based intervention予防介入研究グループ		
研究代表者　木原　雅子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	准教授
研究分担者　鬼塚　哲郎	京都産業大学文化学部	教授
研究班員　S. Pilar Suguimoto	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	助教
木原　彩	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Sakol Sopitarchasak	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Patou M. Musumari	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	研究員
Teeranee Techsrivichien	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Bhekumusa W. Lukhele	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Christina EL-Saaidi	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
本多　由紀子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
立山　由紀子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Zuhal Sulaiman	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
School-based intervention 予防介入研究グループ		
木原　雅子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	准教授
Pilar Sugimoto	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	助教
Patou M. Musumari	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	研究員
Teeranee Techsrivichien	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
木原　彩	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Sakol Sopitarchasak	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Bhekumusa W. Lukhele	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Christina EL-Saaidi	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
本多　由紀子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
立山　由紀子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Zuhal Sulaiman	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
木原　正博	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	教授

目　次

Ⅰ. 総括研究報告

複合予防戦略による多様な若者を対象とした予防啓発手法の開発・普及に関する社会疫学的研究
……木原雅子・他 ……1

Ⅱ. 分担研究報告

研究の概要 ……木原雅子・他 ……7

1.　サイバー戦略を用いた予防介入研究 ……木原雅子・鬼塚哲郎・他　11

1-1　性的多様性についての生徒向けサイトの開発研究 ……木原雅子他 ……11

1-2　開発されたサイトに対する意識調査 ……木原雅子他 ……25

1-3　開発されたサイトのアクセス解析調査 ……木原雅子他 ……41

2.　スクール戦略を用いた予防介入研究 ……木原雅子・他 ……87

2.-1　現在の若者の性意識性行動調査－15 年前との比較研究 ……木原雅子・他 ……87

2-2　他の先進国の若者の性行動の実態についての文献調査：国際比較研究　……パトウー・ムスマリ他 ……179

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
平成２５年度総括研究報告書

複合予防戦略による多様な若者を対象とした予防啓発手法の開発・普及に関する社会疫学的研究

主任研究者：木原　雅子（京都大学大学院医学研究科 准教授）

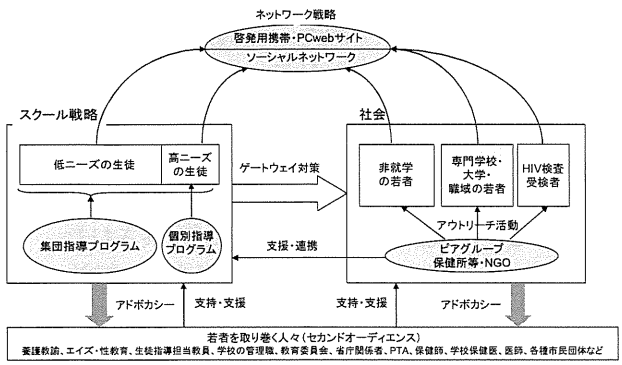
分担研究者：鬼塚　哲郎（京都産業大学文化学部　教授）、

特別研究協力者：杉本ピラール（京都大学大学院医学研究科 助教）

1.研究目的

本研究では、社会疫学的手法（注：質的・量的手法の併用、ソーシャルマーケティング、行動理論、教育理論、社会実験法等）を方法論的基礎とし、複合予防戦略に基づく、包括的HIV予防啓発手法を開発・評価する。急速に拡大するITネットワークを場とする予防戦略（サイバー戦略）と学校を場とする予防戦略（スクール戦略）とを車の両輪として、多様な若者を対象とした全国規模で持続性のある予防モデルを確立することを目的とする。

具体的には、①サイバー戦略：予防支援ニーズが高いにもかかわらず、アプローチが困難な多様性のある若者（セクシャルマイノリティー若者、性行動の活発な非就学・就労の若者）に対して、効果的経済的な予防サイトの開発普及を行うこと、②スクール戦略：主任研究者が以前開発した学校集団指導プログラムの普及阻害要因を減少させ、プログラムを改善普及させると同時に、学校個別指導プログラム等を用いたセクシャルマイノリティー生徒向けの啓発/支援方法の開発普及を行うことを目的とする（下図参照）。



研究の概要

2. 研究方法と3研究結果

（1）サイバー戦略を用いた予防介入研究

(web -based intervention)

2年度は、中学生・高校生のセクシャルマイノリティー生徒向けサイトの開発と改善のために以下の研究を実施した。

(2)セクシャルマイノリティー生徒のためのサイト開発：初年度に実施した多数の先進国および日本のセクシャルマイノリティー向けサイトの帰納的内容分析及び2件のネットサーベイの結果を基にピア（セクシャルマイノリティー当事者、高校生当事者）と協働で、中学生・高校生が安心してアクセスできるようなWebサイトの開発を行った。初年度調査した日本の既存サイトは、ほとんどが思春期若者のみを対象としているわけではないこと、現在の文部科学省の学習指導要領にはセクシャルマイノリティーに関しての集団指導が明記されていないことを考慮し、自身のセクシャリティーに揺らぐ児童生徒も入りやすく、かつセクシャルマイノリティーに対する学校全体の受容的雰囲気（school climate）を高めるために、セクシャリティーに関わらず多くの中学生や高校生の生徒が抵抗感なく自然な形でアクセスしやすいサイトの構築を企画した。したがって、多くの生徒が興味を持つように、セクシャルヘルスだけに限定せず、いじめや自傷行為、自殺を含むメンタルヘルスの情報も含め、さらにセクシャリティーに関しては内容が堅苦しくならないように海外のユーモアのあるCMも動画で掲載するなど様々な工夫をした。また、スマホの普及を考慮し、PCサイト用を開発した。主要コンテンツは、①このウェブは何？、②セクシャルヘルスについて、③セクシャリティーについて、④メンタルヘルスについて、⑤居心地のいい空間を作ろう、⑥面白い情報（海外の動画等）、⑦ちょっと退屈だけど科学的データ、⑧よくある質問、⑨その他（助けてほしいときは！、我々の活動、お問い合わせ先）であり、上記内容を日本語、英語両方で掲載した。

(2)開発したサイトについての調査：【方法】某社の登録webモニター1,134,633人のうち包含基準（既婚者を除く18～19歳男女）を満たす10,348人（男性5,597人、女性4,751人）を対象に性に関するKAP調査（ネットサーベイ）を実施した。質問は30項目で、最後の質問に当研究班で開発したサイトについて閲覧後の感想を記入してもらった（自由記載）。

【結果】感想を記載した合計 1,030 人(男性 515 人、女性 515 人）の記載内容を分析対象とし、本サイトへの感想について帰納的内容分析を実施した。その結果、肯定的意見は 626 人（61%）、否定的意見は 190 人（18%）で、全般的に肯定的であった。肯定的意見としては、(1)見やすい・分かりやすい（220 人, 21%）、(2) 勉強になった・役に立った・ためになった(149 人, 14%)、(3) 良いと思う(97 人, 9%)、(4) デザインがいい。(66 人, 6%)、(5) もっと知らせるべき（59 人, 6%）、(6) 興味深い・必要性を感じた（35 人, 3%）、否定的意見としては、(1) サイト構成上の不便さ・改善の要望（53 人, 5%）、(2) サイトの見た目への批判（44 人, 4%）、(3) 興味が持てない・見たくない（37 人, 4 %）、(4) ニーズがない・見る人がいるか疑問（22 人, 2%）、(5) 何のサイトかわからない（17 人, 2%）、(6) 難しい・わかりづらい（17 人, 2%）であり、今後は特に否定的意見を参考に現在のサイト改善を実施する予定である。

(3)サイトへのアクセス解析：【方法】学校、保健所で上記 URL を紹介する QR コード（注：申請者が開発した、配布場所・配布者を標識でき、かつ転送を追跡できる QR コード）付き紹介カードを配布し、その効果（アクセスの広がりと深さと波及効果）を、アクセス解析(①単位期間内アクセス数, ②アクセス当たりの平均滞在時間, ③アクセス内容, ④アクセスの地理的分布で測定した。【結果】WYSH 教育の全国ネットワークを用いて、23 都道府県の 59 高校を選んで3762 枚を配布したが、アクセス数は58 件(アクセス効率 2%）で、平均ページビュー数は 6.79、平均滞在時間は 4.51 分、直帰率は 21.0%であった。一方保健所では、19 府県 49 ヶ所に配布した 1540 部のうち、306 枚が設置ボックスからピックアップ、もしくは手渡しされ、34 件（11.%）のアクセスがあった。平均ページビュー数は 7.68、平均滞在時間 7.38 分、直帰率 23.5%であり、学校、保健所ともどちらもニーズの高いユーザーによる訪問であることが示された。しかし高校におけるアクセス効率が、携帯電話の時代の若者に比べ、著しく低下していたことから、次年度はその背景を探る必要性が示された。

(2) スクール戦略を用いた予防介入研究 (school -based intervention)

申請者が開発したエイズ予防教育（WYSH 教育）を、最新の青少年の現状に即して改善するために、**青少年の性に関する KAP 調査を実施した。**【方法】前述の某社の登録 web モニター調査（18～19 歳男性 5,597 人、女性 4,751 人）において、性に関する KAP 調査（ネット調査）を実施した。質問は 30 項目で、①エイズ関連知識（9 問)、②性行動（9 問)、③性意識、④性的指向、⑤HIV/性感染症の感染リスク認知、⑥HIV/性感染症関連情報の必要性、⑦学校のエイズ教育の役立ち感、⑧HIV/STI 検査の経験の有無、⑨STI 既往、⑩予防サイトの感想（前述）を尋ねた。

【結果】性経験率は、男性では 18 歳 23%、19 歳 26%、女性では 18 歳 29%、19 歳 37%で女性の方が 10%前後高く、初交年齢は男女とも平均 17 歳(中央値：男性 18 歳、女性 17 歳）で、これまでの相手数の平均値は、男性 3.4 人、女性 2.8 人（中央値：男性 1 人、女性 1.5 人)、同時期に複数の相手と性関係にあった人は、男性 15%、女性 19%、直近のコンドーム使用率は男性 82%、女性 74%、過去 6 か月のコンドーム毎回使用率は、男性51%、女性45%、売買春経験率は、男性 7%、女性 7%、1 か月の平均セックス頻度は、男性 4.2 回、女性 3.7 回（中央値：男性 2 回、女性 2 回）であった。パートナー数とコンドーム使用率との関係は、男女とも相手の数が多い人ほどコンドーム使用率は低下し、男性では相手が 1 人の場合 81%、5 人以上で 73%、女性では 1 人の場合 82%、5 人以上で 57%で、女性における低下が顕著で、本調査の対象の 18-19 歳では女性の方が性行動が活発でかつ無防備な状況が示された。性的指向は、男性で、同性愛 2%、両性愛 6%、非性愛 asexual3%、Questioning youth[QY]2%)、女では同性愛 1%、両性愛 11%、非性愛 5%、QY6%であった。HIV 検査経験率は、男性 2%、女性 1%に留まった。また、性感染症の罹患経験は全体で 1.3%で、男性では 0.4%、女性では 2.1%と男性に比べ女性の方が性感染症の感染の経験がある人の割合が高いことが示された。性感染症の感染の経験と関連する因子を調べた結果、①生涯パートナー数が多いこと、②同時に複数の相手がいること、③セックスの頻度が高いこと、④コンドームを使う頻度が低いこと、⑤金銭の授受を介したセックスの経験があることが統計的に有意の関連が観察された。

さらに、今回の性行動調査の結果を 15 年前（1999 年）に我々が実施した全国国民性行動調査の同年齢の対象群の結果と比較した。その結果、①性経験率、②生涯パートナー数 3 人以上の割合、③同時に複数の相手のいる人の割合、④金銭の授受を介したセックスに対する容認度のすべての項目において、男性では 15 年前に比べ、微増であるのに対し、女性ではすべての項目で大幅な上昇が観察され、女性の性行動の活発化が 15 年までの調査結果との比較からも明らかとなった。

（倫理面での配慮）疫学研究に関する倫理指針に則

り、プライバシーの保護、差別・偏見の問題について十分な配慮を行った。

4．考察

これまで、主任研究者が社会疫学的手法に基づいて開発した、就学生徒を対象とした予防モデル（WYSH モデル）は、科学性と社会文化的適切性の面で高く評価され、厚生労働省、文部科学省の公式の支援を得るに至り、わが国最大の予防教育プロジェクトに発展した。この実績を基に、本研究では、さらに、セクシャルマイノリティー若者（SMY）や性行動の活発で支援ﾆｰｽﾞの高い若者等、これまでアクセスが困難であった若者への予防介入研究を実施した。2 年度は初年度の調査結果を基にさらに研究を発展させ、サイバー戦略では、SMY 向けサイトのプロトタイプの開発を行い、学校と保健所でサイト誘導カードを配布された人たちに対してのアクセス解析を実施したが、その結果、学校における配布では、アクセス率が携帯電話の時代（2011 年）から予想から大幅に下回る結果となった。この背景としては、配布時の教員の不適切な説明も考えられるが、2011 年から 2013 年にかけて、携帯使用率は>95%から 15%に一挙に激減、スマホが激増したため、中高生向けスマホのデフォルトのフィルタリング機能がアクセス阻害の原因の１つである可能性も示唆されている。これは、インターネット啓発一般に係る問題であるため、原因究明のための研究を次年度実施し、その問題点を改善する必要があると考えられた。一方、スクール戦略では、我々が開発した系統的予防教育プログラム（WYSH 教育）は過去 10 年、文科省の研修会でも紹介推薦され、研究代表者独自の研修事業で数千校での実施実績があり、性教育担当者の半数以上で認知されているが、今年度の青少年の性行動調査の結果から、特に若年女性の性行動が活発で無防備化している可能性が示されたことから、その現状に即した予防啓発モデルの改善の必要性が示唆された。また、学校現場の現状（文部科学省の学習指導要領にはセクシャルマイノリティーついての情報の記載がない）に鑑み、前述のサイバー戦略を取り入れながら、学校関係者にも抵抗なく、生徒に情報が提供できる方法を開発することが必要であると考えられた。

5．自己評価

1）達成度について：サイバー戦略、スクール戦略を両輪として、これまでニーズが高いにもかかわらずアプローチが困難であったセクシャルマイノリティー中学生・高校生に対する予防サイトのプロトタイプの開発、および改善のための調査を行い、当初の予定通り、今後の予防啓発モデル構築の基礎研究を行った。

2)研究成果の社会的意義について：本研究は多様な若者（セクシャルマイノリティー、性行動の活発な生徒等）の社会文化に適した科学的予防モデルの創出と普及という重要な課題に取り組み、また近年急速に発達している IT を用いた費用対効果の面で応用性の高い予防啓発の可能性を示そうとしているという意味で社会的意義が高い。

3)今後の展望について：セクシャルマイノリティーの中高生等アクセスが困難な高ニーズ層の若者や最新の青少年の性行動の現状に対する研究結果を基に、現在のわが国で実施可能性があり、かつ効果的な青少年予防啓発モデルの開発を継続する予定である。その際 MSM 対策と青少年対策の有機的連携は喫緊の課題であると考えられる。

6．結論

多様な若者（セクシャルマイノリティー、活発で無防備な性行動をとる若者）（就学・非就学）に適した科学的予防介入モデルの開発の基礎研究実施という当初の目標を予定通り達成した。

7．知的所有権の出願・取得状況　：特になし

研究発表（下線=主任研究者）（平成 25 年度）

[原著論文・総説]

1. Suguimoto S§, Techasrivichien T, Musumari PM, El-saaidi C, Lukhele BW, Ono-Kihara M, Kihara M. Changing patterns of HIV epidemic in 30 years in East Asia. Current HIV/AIDS Report (Invited review, 2014, in press)
2. Ghimire PB, Suguimoto SP, Zamani S, Ono-Kihara M, Kihara M. Vulnerability to HIV infection among female drug users in Kathmandu Valley, Nepal: a cross-sectional study. BMC Public Health (Accepted on Dec.18, 2013)
3. Musumari PM, Piot P, Kayembe P, Wouters E, Kiumbu, MbikayiS, Ono-Kihara M, Kihara M. Food insecurity is associated with increased risk of non-adherence to antiretroviral therapy among HIV-infected adults in the Democratic Republic of Congo: a cross-sectional study. PLoS ONE 2013 (Accepted on Nov.26, 2013).
4. Musumari PM, Feldman MD, Techasrivichien T, Wouters E, Ono-Kihara M, Kihara M. If I

have nothing to eat, I get angry and push the pills bottle away from me": A qualitative study of patient determinants of adherence to antiretroviral therapy in the Democratic Republic of Congo. AIDS Care. 2013 Feb 6. [Epub ahead of print]

5. Ma Q, Pan X, Cai G, Yan J, Xu Y, Ono-Kihara M, Kihara M. Unintended pregnancy and its correlates among female attendees of sexually transmitted disease clinics in Eastern China. Biomed Res Int. 2013;2013:349174. doi: 10.1155/2013/349174. Epub 2013 Jun 13.
6. Ma Q, Pan X, Cai G, Yan J, Xu Y, Ono-Kihara M, Kihara M. The characteristics of heterosexual STD clinic attendees who practice oral sex in Zhejiang Province, China. PLoS One. 2013 Jun 25;8(6):e67092. doi: 10.1371/journal.pone.0067092. Print 2013.
7. Ma Q, Pan X, Cai G, Yan J, Ono-Kihara M, Kihara M. HIV antibody testing and its correlates among heterosexual attendees of sexually transmitted disease clinics in China. BMC Public Health. 2013 Jan 17;13:44. doi: 10.1186/1471-2458-13-44.

[著書等]

1. 木原雅子. WYSH 教育事例集１、『性教育、いじめ教育、いのちの教育、やる気アップ教育のモデル紹介』～健康教育・道徳教育・キャリア教育・情報教育・人権教育・生徒指導・教育相談の現場で使える事例集～、一般財団法人日本こども財団、京都、2013
2. 木原雅子. ソーシャルマーケティングの研究への導入. ヘルスリサーチの方法論（井上洋士編集）、放送大学出版会、2013 年
3. 木原雅子、木原正博. 医学的介入の研究デザインと統計：ランダム化／非ランダム化研究から傾向スコア、操作変数法まで。メディカルサイエンスインターナショナル、東京、2013（原著：Katz MH. Evaluating Clinical and Public Health intervention. Cambridge University Press. 2010）

【講演会・研修会・シンポジウム等】（主任研究者のみ）

平成 25 年度（2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月末まで）

1）木原雅子　『青森県立大湊高等学校父母と教師の会』　青森県大湊高等学校 PTA 連合会　主催、青森県、平成 25 年 4 月 20 日
2）木原雅子　『福岡県教育庁京築教育事務所　「小・中学校新任保健主事研修」』　福岡県教育庁京築教育事務所　主催、福岡県、平成 25 年 6 月 12 日
3）木原雅子　『国際ソロプチミスト小松　『母親との WYSH 教育「ワークショップ」』』　国際ソロプチミスト小松　主催、石川県小松市、平成 25 年 6 月 29 日
4）木原雅子　『平成 25 年度生徒指導指導者養成研修（つくば市）』　独立行政法人教員研修センター（文部科学省）　主催、茨城県つくば市、平成 25 年 7 月 4 日
5）木原雅子　『平成 25 年度 神奈川県立高等学校 PTA 連合会研修大会』　神奈川県高等学校 PTA 連合会　主催、神奈川県横浜市、平成 25 年 7 月 7 日
6）木原雅子　『宮崎県教育研修センター　「学校における性に関する教育の推進」』　宮崎県教育研修センター　主催、宮崎県宮崎市、平成 25 年 7 月 9 日
7）木原雅子　『京都市立嵯峨野小学校ＰＴＡ右京はぐくみ委員研修会』　京都市 PTA 協議会右京はぐくみ委員会　主催、京都府京都市、平成 25 年 7 月 12 日
8）木原雅子　『「平成 25 年度 全国地方自治体保健所等の青少年エイズ対策推進プログラム」』　公益財団法人　日本エイズ予防財団　主催、京都市、平成 25 年 7 月 16～17 日
9）木原雅子　『愛知県教育委員会「平成 25 年度からだと心の専門講座」』　愛知県教育委員会　主催、名古屋市、平成 25 年 7 月 25 日
１０）木原雅子　『熊本市教育委員会「平成 25 年度 性に関する指導第１次研修会」』　熊本市教育委員会　主催、平成 25 年 7 月 30 日

１１）木原雅子　『平成 25 年度　「WYSH 教育」全国研修会　指導者養成コース』 小学校向け（基礎編）　一般財団法人　日本こども財団　主催、平成 25 年 8 月 5 日
１２）木原雅子　『平成 25 年度　「WYSH 教育」全国研修会　指導者養成コース』 小学校向け（応用編）　一般財団法人　日本こども財団　主催、平成 25 年 8 月 6 日
１３）木原雅子　『平成 25 年度　「WYSH 教育」全国研修会　指導者養成コース』 高等学校向け（基礎編）　一般財団法人　日本こども財団　主催、平成 24 年 8 月 8 日
１４）木原雅子　『平成 25 年度　「WYSH 教育」全国研修会　指導者養成コース』 高等学校向け（応用編）　一般財団法人　日本こども財団　主催、平成 24 年 8 月 9 日
１５）木原雅子　『平成 25 年度　「WYSH 教育」全国研修会　指導者養成コース』 中学校向け（基礎編）　一般財団法人　日本こども財団　主催、平成 25 年 8 月 19 日
１６）木原雅子　『平成 25 年度　「WYSH 教育」全国研修会　指導者養成コース』 中学校向け（応用編）　一般財団法人　日本こども財団　主催、平成 25 年 8 月 20 日
１７）木原雅子　『第 63 回全国高等学校ＰＴＡ連合会：全国大会（山口大会）』 一般社団法人　全国高等学校 PTA 連合会　主催、山口県、平成 25 年 8 月 22 日
１８）木原雅子　『「第 32 回 日本思春期学会総会・学術集会」』　日本思春期学会　主催、平成 25 年 9 月 1 日
１９）木原雅子　『猿払村鬼志別保育所子育て支援センター　保護者・職員研修会』　猿払村鬼志別保育所/教育委員会　主催、北海道、平成 25 年 9 月 7 日
２０）木原雅子　『京都市教育委員会「小 P 連はぐくみ委員会・中 P 連親学び委員会　合同学習会」』　京都市教育委員会　主催、京都市、平成 25 年 9 月 9 日
２１）木原雅子　『平成 25 年度　「エイズ―社会を映す鏡」』　大学コンソーシアム京都全学共通教育センター　主催、京都市、平成 25 年 9 月 12 日
２２）木原雅子　北海道市立札幌大通高等学校（全日・定時制）WYSH モデル授業　フォーカスグループインタビュー、北海道、平成 25 年 9 月 24 日～26 日
２３）北海道市立札幌大通高等学校（全日・定時制）WYSH モデル授業、北海道、平成 25 年 10 月 22 日～24 日
２４）木原雅子　『愛媛県高等学校教育研究会　研修会』　愛媛県高等学校教育研究会　主催、平成 25 年 11 月 6 日
２５）木原雅子　『第 63 回全国学校保健研究大会　課題別協議会 第 5 課題「性に関する指導」』　全国学校保健会/秋田県教育庁　主催、平成 25 年 11 月 7 日～8 日
２６）木原雅子　『鳥取県立日野高等学校　性教育研修会』　鳥取県立日野高等学校　主催、鳥取県、平成 25 年 11 月 12 日
２７）木原雅子、『鳥取県立鳥取工業高等学校「教職員研修」』　鳥取県立鳥取工業高等学校　主催、鳥取県、平成 25 年 11 月 21 日
２８）木原雅子　『平成 25 年度　健康教育指導者養成研修（健康コース）西部ブロック』　独立行政法人教員研修センター（文部科学省）　主催　、福岡県、平成 25 年 11 月 28 日
２９）木原雅子　『三重県立北星高等学校 PTA 講演会』　三重県立北星高等学校 PTA　主催　三重県、平成 25 年 11 月 30 日
３０）木原雅子　『兵庫県教育委員会「学校における性に関する指導の在り方」』　兵庫県教育委員会　主催、兵庫県、平成 25 年 12 月 3 日
３１）木原雅子　『三重県伊勢市学校保健会：性教育研修会』　三重県伊勢市学校保健会　主催　三重県伊勢市、平成 25 年 12 月 5 日
３２）木原雅子　『新潟市教育委員会「性に関する教育・生きる教育」』　新潟市教育委員会　主催、新潟市、平成 25 年 12 月 6 日
３３）木原雅子　『和歌山県教育委員会 平成 25 年度『性に関する指導』研修会』　和歌山県教育

庁学校教育局健康体育課　主催、和歌山市、平成 25 年 12 月 11 日～12 日

３４）木原雅子　『平成 25 年度　健康教育指導者養成研修（健康コース）東部ブロック』　独立行政法人教員研修センター（文部科学省）　主催　、茨城県つくば市、平成 25 年 12 月 20 日

３５）木原雅子　『特定非営利活動法人チャイルドライン「もしもしキモチ」『思春期の性について勉強会』』　特定非営利活動法人チャイルドライン　主催、福岡県、平成 25 年 12 月 22 日

３６）木原雅子　『平成 25 年度思春期保健関係職員等研修会』　福島県いわき市保健所　主催、福島県、平成 26 年 1 月 9 日

３７）木原雅子、『青少年の性感染症予防及び生きる力を育む教育研修会』　石川県南加賀保健福祉センター　主催、石川県小松市、平成 26 年 1 月 14 日

３８）木原雅子　『WYSH 教育を子供たちに！「ワークショップ」』　国際ソロプチミスト小松　主催、石川県小松市、平成 26 年 1 月 21 日

３９）木原雅子、『WYSH 教育実践発表会』　日本こども財団広島支部　主催、広島県、平成 26 年 1 月 25 日

４０）木原雅子、『国際ソロプチミスト大津　「チャリティ講演会」』　国際ソロプチミスト大津　主催、滋賀県大津市、平成 26 年 1 月 29 日

４１）木原雅子、『平成 25 年度　大阪市教育委員会研究支援事業「WYSH 教育の実践発表会」』　大阪市立大領中学校　主催、平成 26 年 1 月 31 日

４２）木原雅子、『全国高等学校 PTA 連合会　「平成 25 年度 第 2 回全国会長・事務局長研修会」』一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会　主催、平成 26 年 2 月 9 日

４３）木原雅子、『境港市立第三中学校教職員研修会』　境港市立第三中学校　主催、平成 26 年 2 月 17 日

４４）木原雅子、『境港市立第一中学校教職員研修会』　境港市立第一中学校　主催、平成 26 年 2 月 18 日

４５）木原雅子、『第 5 回　健康教育部研究会』　兵庫県豊岡市教育研究協議会　主催、平成 26 年 3 月 8 日

複合予防戦略による多様な若者を対象とした予防啓発手法の開発・普及に関する社会疫学的研究

【研究の背景/目的】

わが国の HIV 感染者の報告数は、若い年齢層（同性間性的接触を含む）を中心に増加・横ばい傾向を続け減少の兆しはまだ見られず、現在わが国は先進国で若者（39 歳以下）の感染者の割合の最も多い国の１つとなった。しかも、日本を取り巻く状況は悪化しつつある。先進国においては、2000 年代に入って、HIV 流行が再燃し、同性間感染だけではなく、異性間感染が増加し始めた。アジアでは、同性間感染が進行し、東アジアの国々では様々な経路による流行が日本を大きく上回る規模で進行しつつある。こうした諸外国の流行の影響が現れるのは時間の問題であり、その意味で、大人社会の入り口に位置する若者に対するゲートウェイ戦略としての青少年 HIV 予防対策の充実と普及は、急務の課題であると考えられる。加えて、主要感染ルートのほとんどが MSM 感染であったオーストラリアは、流行の初期段階での流行抑制に成功した国であるが、当時、徹底した MSM 対策と同時に、徹底した青少年エイズ予防対策が実施されていたことを忘れてはならない。さらに、近年、欧米でも、HIV の性感染が増加（再燃）していることから、欧米モデルの単純な模倣ではなく、我国の若者の社会的現実とエビデンスを踏まえた予防啓発モデルの開発と普及が求められている。

【基本的な研究方針】（図 1）

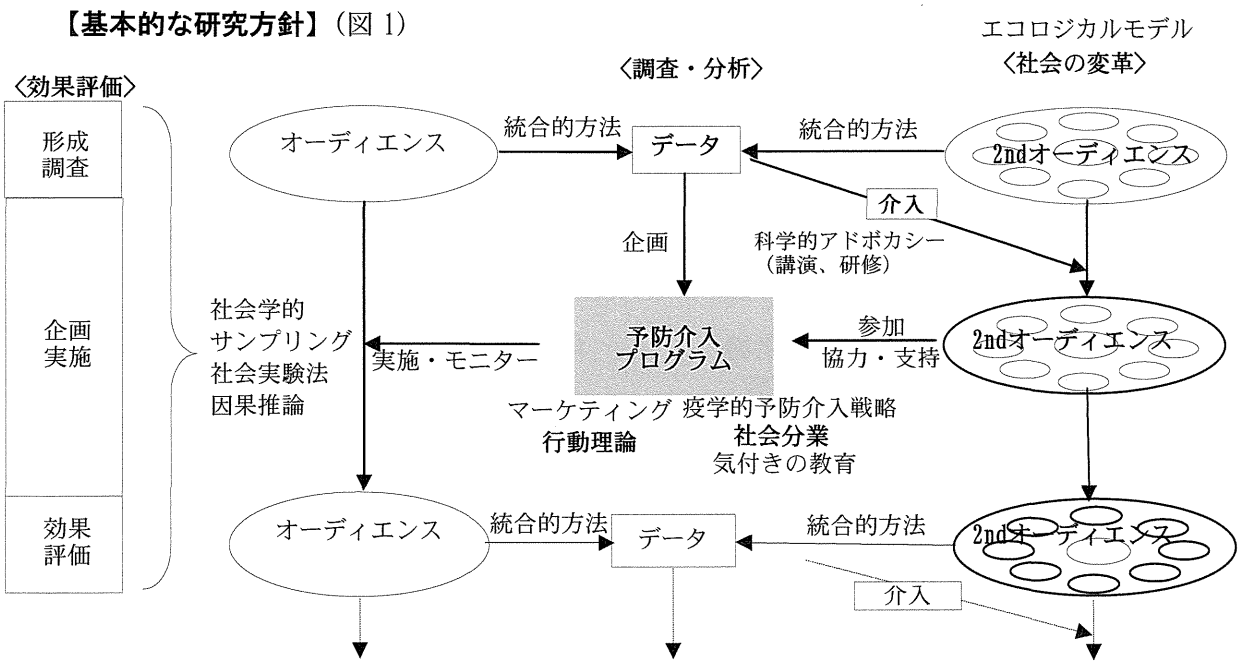


図1. 社会疫学的予防介入の構造

上図に示したように、社会疫学的手法（質的方法と量的方法の併用 [統合的方法]、社会実験的研究デザイン・社会学的サンプリング、ソーシャルマーケティング、行動理論、課題提供型教育等）を用いて、対象集団の文化特性に適合し、かつ現実の社会的文脈の中で持続的に実施可能な HIV 予防啓発方法のエビデンスを提供する。

【基本的な研究戦略】

近年、行動変容戦略は世界的に大きな反省期にある。HIV 流行の発覚後 4 半世紀経った今も、途上国では依然大規模な HIV 感染が続き、対策に成功したと思われてきた先進国でも流行が再燃してきたからである。根治薬、ワクチン、性器塗布薬といった医学的解決法が近年相次いで挫折し、改めて行動変容戦略の真価が問われていることもその背景にある。以前 Lancet 誌に HIV prevention series が連載され、その中で行動変容戦略についてのレビューが掲載された。その中では、認知行動理論とランダム化試験を至上モデルとする従来の小規模な研究的アプローチの限界を指摘しつつ、以下の２つのポイントが今後の HIV 予防対策に不可欠であると指摘している。

第一は、複数の行動を対策の視野に入れることである（マルチゴール）。これまでは、しばしば、対策の目的が、コンドーム使用あるいは禁欲に限定されることもあったが、「性行動の開始年齢を遅らせる」、「性的パートナー数を減らす」、「コンドームを使用する」、「HIV 検査を受ける」、「STD の検査・治療を受ける」など、HIV 流行予防に寄与し得る行動変容は多数存在する。これらを戦略の視野に同時に取り込まなければならない。

第二は、マルチレベルであることである。行動が社会的現象である事実を踏まえて、個人や小グループを対象とするだけではなく、カップル、家族、ピアグループ、ネットワーク、組織（学校、地方自治体等）、社会全体と様々なレベルからのアプローチを同時並行的に進めていく必要がある。

第三は、単なる知識伝達型の対策ではなく、構造的アプローチを取り入れることである。構造的アプローチとは、人々を行動的に脆弱な状態に追いやる社会的構造を明らかにして、それに対する根本的対策を講じることを言う。

こうした複雑な予防戦略は、「複合予防 combination prevention」と呼ばれ、従来の単純な予防対策と対比して用いられている。本研究では、この複合予防の戦略を目指す。

【研究の基本構造】

「研究の枠組み」：ソーシャルマーケティングをベースとした社会疫学的手法をプログラムの基本枠組みとし、行動変容を目指す。

個人：若者の知識/意識/行動の変容

環境：社会規範、人間関係、物/サービスの供給、2nd オーディエンスの知識/意識/行動の変容

① **形成調査**：質的調査と量的調査の併用［統合的方法］。

（１）質的調査（主にフォーカスグループインタビューFGI を使用、質的分析）

（２）量的調査（ネット調査、質問紙調査、統計分析）

② **介入企画（多段階）**：

（１）行動理論：段階行動理論（リスク認知→知識→態度→意図→行動）

（２）マーケティング：Segmentation、4Ps (Product、Price、Place、Promotion), Prompt, Commitment

個人レベル：

（保健室での個別指導、保健所の相談窓口、インターネット予防サイト等）

集団レベル：

高等学校/中学校の授業を通した集団指導（パワーポイント、DVD、パンフレット、予防サイト誘導カード）

地域的啓発キャンペーン（ポスター、パンフ）

③ **実施：**標準化（研修会実施と教材/啓発資材提供）

④ **モニタリング（プロセス評価）**：介入の実施状況の把握

⑤ **効果評価（個人と環境の調査）**：質的調査と量的調査の併用［統合的方法］。

（１）質的調査（主に FGI を使用、質的分析）

（２）量的調査（ネット調査、質問紙調査、統計分析）

＊ **統合的方法(mixed/combined method)**(図 2)：現状をよりリアルに把握するために量的方法（質問紙調査と統計分析）と質的方法（面接調査と質的分析）を併用し、予防に役立つ具体的情報を抽出する。

図 2.統合的方法
synthetic (combined) method
質的方法と量的方法の併用

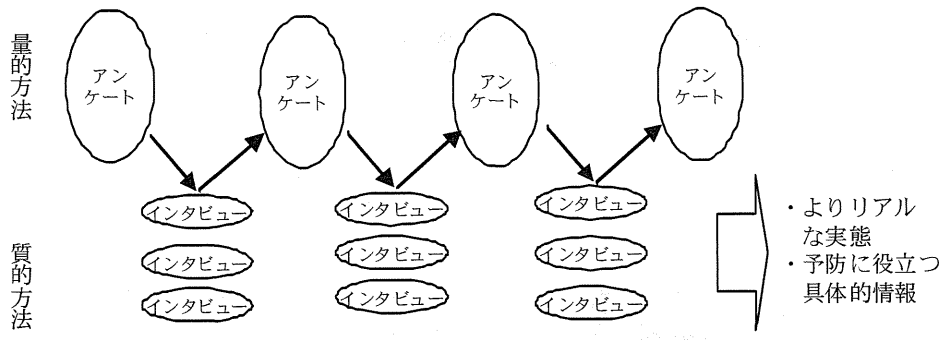
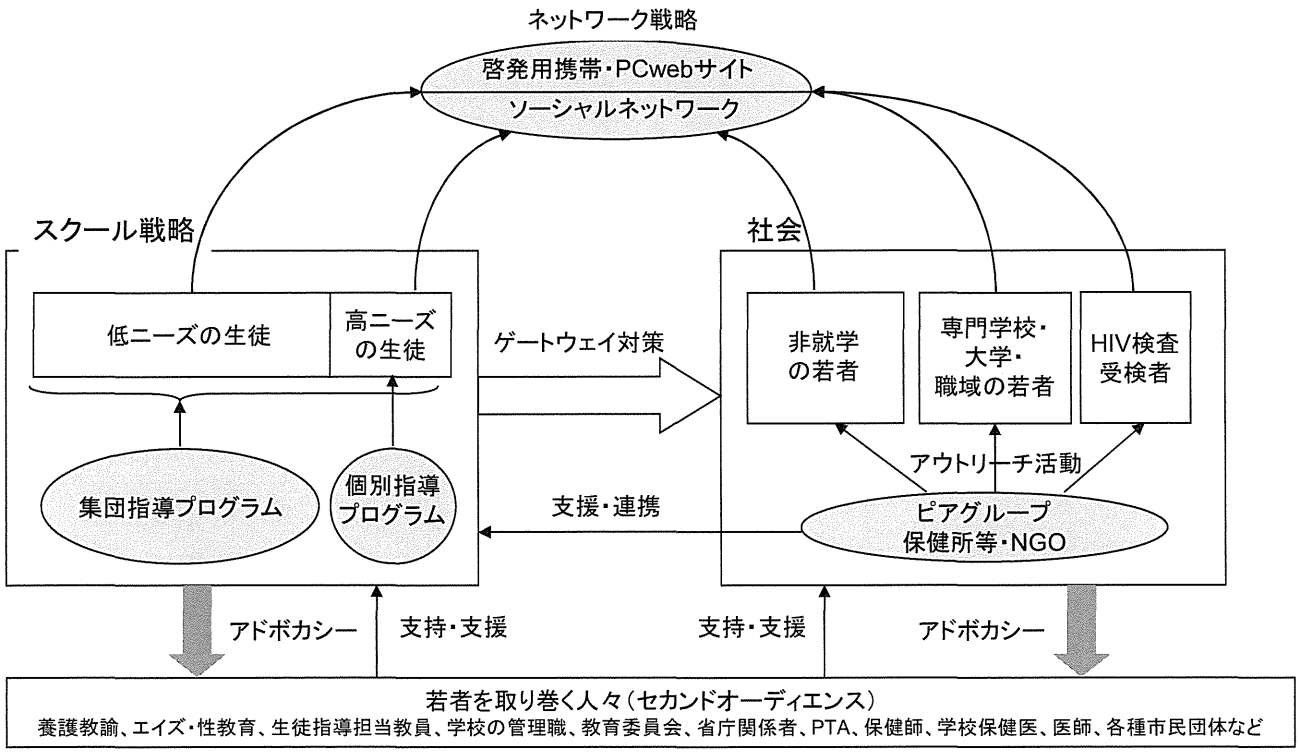


図３．研究の全体像



研究の概要

複合予防戦略による多様な若者を対象とした予防啓発手法の開発・普及に関する社会疫学的研究
（2013 年度の報告概要 ）

1．サイバー戦略を用いた予防介入研究（web-based intervention）

（1） 研究 1：性的多様性についての生徒向けサイト開発研究
（2） 研究 2：開発されたサイトに対する意識調査
（3） 研究 3：開発されたサイトのアクセス解析調査

2．スクール戦略を用いた予防介入研究（School-based intervention）

（4） 研究 4：現在の若者の性意識/性行動調査―15 年前との比較研究
（5） 研究 5：諸外国の若者性行動の実態についての文献調査：国際比較研究

1. サイバー戦略を用いた予防介入研究：web-based intervention

研究1. 性的多様性についての生徒向けサイトの開発に関する研究

木原雅子（京都大学大学院医学研究科）
S.Pilar Suguimoto（京都大学大学院医学研究科）
Sakol Sopitarchasak（京都大学大学院医学研究科）
木原彩（京都大学大学院医学研究科）
Bhekumusa W. Lukhele（京都大学大学院医学研究科）
Christina El-Saaidi（京都大学大学院医学研究科）
本多由起子（京都大学大学院医学研究科）
Patou Masika Musumari（京都大学大学院医学研究科）
Teeranee Techasrivichien（京都大学大学院医学研究科）
鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部）

【研究の背景・目的】

学校を場とする予防戦略（スクール戦略）と、急速に拡大するITネットワークを利用する予防戦略（サイバー戦略）を車の両輪として、多様な若者を対象とした全国規模での持続性ある予防モデルを確立することを目的とする。セクシャルマイノリティーについての学校での集団指導（授業実施）は、文部科学省の性に関する指導についての学習指導要領にセクシャルマイノリティーに対する指導の明確な記載がないことから、現実的には学校での集団指導の実施は困難である可能性が高いと考えられるため（但し、学校における個別指導は可能）、学校でのwebサイトの紹介が実施可能性の観点から最も現実性の高い方法であると推測される。したがって、スクール戦略とサイバー戦略を併用した戦略を実施する。

セクシャルマイノリティーユース（中学生・高校生）用のwebサイト開発のための形成調査として、初年度の①国内外の関連既存サイトのレビュー調査、②サイトユーザー（15歳～25歳）に対するネット調査を実施した。①の国内外の既存サイトのレビュー調査の結果、本研究の目的に合致するサイトは海外のサイト（米国、オーストラリア）から最終的に7件、国内のサイトからは10件を抽出し内容分析を実施した。国内のセクシャルマイノリティー関連サイトは存在するが、最終的に抽出した10件のうち、我々が把握できた範囲では、国内の既存サイトで、セクシャルマイノリティーの中学生・高校生向けと明示されているサイトは1件であり、サイト内容はとてもよく構成されたものであったが、セクシャルヘルスの情報が含まれていなかった。このような状況から、今後のHIV流行抑制を促進するためには、セクシャルヘルス部分も含めた生徒向けサイトの開発が喫緊の課題であると考えられた。

【研究の方法】

■ webサイトの開発プロセス

1. 形成調査の実施：
   ①国内外の既存サイトのレビュー調査
   ②若年ネットユーザーに対するネット調査

① の結果：海外のサイトのうち優れたサイトから参考となる構成・コンテンツの参考情報を収集した。国内サイトでは、既存サイトはどのようなもので、何が不足しているのかを調べ、国内サイト開発のニーズアセスメントを実施した。

② の結果：15-25歳の若年層に対して、セクシャルマイノリティーに対する知識や誤解。意識およびネットで欲しいセクシャルヘルスの情報の実態を把握し、その結果をサイト開発の際の参考にした。

③ 上記情報を基に社会疫学的手法(ソーシャルマーケティングを基礎とし、各種科学的理論を視野に入れ、当事者と研究者からなるサイトプロジェクトチームでサイトのプロトタイプを開発した。

■形成調査の概要

現在のわが国のHIV流行の要となるMSMユース層(特に中学生・高校生)へのwebサイト開発の形成調査(formative research)の一環として、①海外および国内の既存のセクシャルマイノリティー向けサイトのレビュー調査と②対象となる年齢層(15歳～25歳)への性的多様性(セクシャリティー、セクシャルマイノリティー)に対する誤解や意識・偏見・差別の実態を把握し、今後の予防啓発手法開発の基礎資料を収集するための調査を実施した。

① 国内外のセクシャルマイノリティーユース向けサイトのレビュー調査:
先進国(豪米)および日本のセクシャルマイノリティー向けサイトの分析から、アクセスできた既存サイトは、ほとんどが思春期若者のみを対象としているわけではなかった。海外のサイトには、non-heterosexual 生徒向け(中高生向け)サイトがある程度存在し、内容も充実していたため、それらのサイトの中から、日本の文化・習慣・学校環境に適した部分を抜粋し、本サイト開発の基礎とした。一方国内では、内容の充実したサイトは数多く存在したが、セクシャルマイノリティー生徒向け(特に中学生・高校生の生徒対象)と対象を限定すると、セクシャリティーに関する基礎情報の提供が主でメンタルヘルスは扱っているが、セクシャルヘルスとメンタルヘルスの両方を扱っているサイトは我々が調べた限りでは存在しなかったため、特に生徒向けと明記していないサイトでも、生徒向けにふさわしい箇所を抽出した。

② 対象となる年齢層のネット調査:
某社に登録webモニター1,119,539人のうち包含基準(中学生を除く15歳～25歳男女)を満たす10,520人を対象に性的多様性に関する意識知識調査(ネット調査)を実施し、2,060人が回答した。質問は30項目で、内容は大きく5つに分類され、①性的指向についての質問(本調査ではsexual attractionとself identificationの2問で尋ねた)、②セクシャルマイノリティーに関する各種の誤解についての質問(例:non-heterosexualは精神疾患であると思う、治療で治すことができると思う、自分の意思で変えることができると思う、non-heterosexualの人に育てられるとnon-heterosexualになるなど複数の質問をした)、③non-heterosexualに対するステレオタイプな意識、④セクシャルマイノリティーに対する意識(例:同性婚についての質問、学校で性的多様性について教育をするべきかについての質問など複数の質問群)、⑤セクシャルマイノリティーであることを告白された場合の態度(例:友人の場合、家族の場合、恋人の場合などについての質問)を尋ねた。
その結果、セクシャルマイノリティーに対する誤解や偏見が多数存在するという調査結果が得られたため、その誤解や偏見を減少させることをサイトの内容に含めた。

③ <u>各国のセクシャルマイノリティ生徒への対策に関する文献調査:</u>
先進国における学校内でのセクシャルマイノリティー生徒に対する支援対策/予防教育に関する文献調査を実施した。【方法】4データベース(Pub Med, Web of Science, Education resources Information, The Cochrane Library)から、過去10年間(2002-2012年)について、School, questioning, LGBTQ, sexual minority, gay, lesbian, bisexual, suicide, substance, alcohol, victimization, harassment, bullying, support, prevention を複合キーワードとして文献を検索し、研究デザインの質等なども考慮し、最終的に15件の文献を分析対象とした。【結果】効果が見られた対策・方法は、①セクシャルマイノリティーに対する学内の生徒・教職員の肯定的態度の育成(positive school climate):米国、7,376人中学生対象、肯定的態度の学校では、LGBT 生徒の抑うつ傾向、自殺未遂、薬物・アルコール摂取が有意に減少。②教職員の肯定的態度、③学内の避難部屋(生徒をくつろがせたり、精神的葛藤を和らげ

る専門技術を有するスタッフがいる部屋)。④学内のいじめ／ハラスメント指針(規則)の作成と実施:カナダの全国生徒調査 3,607 人によると、指針のある学校では、ない学校に比べ、性的多様性に関するいじめ嫌がらせが減少。2011 年、米国の全国調査(13-20 杜氏)8,584 人対照でも同様の傾向が観察されたが、オーストラリアの調査では、嫌がらせは減少したが、自傷行為、自殺には影響なしであった。⑤Gay-straight alliance(GSA):GSA は生徒主導の学内クラブでメンバーは性的指向に関係なく誰でも参加可能。カナダ、英国、メキシコ、オランダ、ニュージーランドの高校や中学校で開始。米国 50 州の 8,584 人調査では、GSA の存在が、LGBTQ へのいじめ嫌がらせを減少させ、学校集団帰属意識を増加させた。ウィスコンシン 45 校の中学生 15,965 人調査でも、GSAの存在が不登校、喫煙、飲酒、自殺未遂、Casual sexを減少させた。⑥学内カリキュラムに包含:セクシャリティー関連の情報提供を授業のカリキュラムに入れる。学内のポスター掲示、書籍の紹介。等の結果が得られたが、そのうちわが国でも実施可能性のある部分を開発方針の参考情報とした。

■開発の方針

上記の形成調査の結果を基に、以下の方針でサイト開発を行った。

① 自らのセクシャリティーに揺らぐ生徒(中学生、高校生)が入りやすいサイトであること。

② 生徒の年齢(未成年者)、および紹介場所(学校)を考慮し、安心して入れる信頼感のあるサイトであること。

③ 学校の school climate の向上と間接的 GSA の構築を目的に、をセクシャリティーに関わらず(heterosexual も non-heterosexual どちらも)生徒が誰でも抵抗感なくアクセスしやすいサイトであること。

④ 生徒が誰でも興味を持てるように、セクシャリティーに限定しない包括的な内容(いじめ、自傷行為、メンタルヘルス等)を含むサイトであること。

⑤ 教科書的な堅苦しさのない楽しいサイトであること。

■開発したサイト

上記、各種形成調査の結果及び、日本での実施可能性に鑑み、以下のサイトを開発した。

サイトの主要コンテンツの基本骨格は、以下の構成である。

① このWebサイトは何？
② セクシャルヘルスについて
③ セクシャリティーについて
④ メンタルヘルスについて
⑤ 居心地のいい空間を作ろう
⑥ 面白い情報
⑦ ちょっと退屈だけど科学的データの紹介
⑧ よくある質問(FAQ)
⑨ その他

●各コンテンツの内容

①このウェブは何？

- 公的機関で開発されたものであることを説明
- このサイトの名称「Out of the Box」の意味の説明しながらこのサイトの方針を伝える

②セクシャルヘルスについて

●セーファーセックス
- ・セーファーセックスとは？
- ・セーファーセックスじゃなきゃだめ？
- ・私はレズビアンだから大丈夫？！
- ・どうすればいいの？
- ・コンドーム
- ・女性用コンドーム
- ・デンタルダム

● 性感染症(STDs)
- ・エイズ
- ・尖圭コンジローマ
- ・クラミジア
- ・淋病

- 性器ヘルペス
- 梅毒

● 妊娠について
- はじめての性行為でも妊娠するの？
- 射精の前に膣からペニスを抜いても妊娠するの？
- 性行為の後に膣を洗うと妊娠を予防できる？
- 妊娠の兆候と症状
- もし妊娠したらどんな選択肢があるの？

● 避妊について
- 抜去法（膣外射精）
- 妊娠しやすい時期を意識することに基づく方法
- 男性用コンドーム
- 女性用コンドーム
- 殺精子剤
- ダイアグラム・ペッサリー
- 経口避妊薬
- 子宮内避妊具（IUD）
- 一般的な方法で１年目に妊娠する可能性は？
- 緊急避妊法

● 月経周期・月経前症候群（PMS）
- 月経周期とは何？
- 月経期間の間には何が起こるの？
- 月経周期に関係してよく起こる症状にはどんなことがあるの？
- 月経前症候群って何？
- PMSにはどんな症状があるの？
- PMSになったらどうしたらいいの？
- 月経前不快気分障害とは何？
- 月経についてどのような問題が起こるの？
- 生理用品について
- 生理中ということはほかの人はわかりますか？

● 生殖器の加齢
- 女子の年齢と卵子
- 精子も歳をとります

● 性についてのよくある悩み
- 大きさに悩んでいませんか？
- 何が普通？
- 大きさは大事？
- ペニス増大法？